

## 2022年3月5日かざぐるまデモ Johanna Buchmann (Fridays for Future Berlin) の演説

私はヨハナという名で、24歳です。12歳の時に、ドイツで原発事故が起きるといふ映画を見て初めて、原子力という言葉が耳にしました。その時の恐怖と不安感を今でもよく覚えています。もう少し大きくなって原子力というのがどういうものかわかるようになった時、原子力は人間にとって恐ろしく、これまでも大規模の事故があったから、そこから脱却しなければならないのだという大人たちの話を聞きました。「原子力おことわり」のシールは私が育った町ではどこにでも貼られていました。14歳の時、フクシマの原発事故が起きました。そして今度は大人たちの目の中にはっきり不安があるのを認めることができました。それからそれに対していろいろな反応があり、脱原発を決定したメルケルを皆が褒めたたえ、すべての不安も危険ももうすぐ過去のものになると人々が思いました。それが私の子供時代の話です。

そして今2022年、私はここに立っています。あたかも歴史が繰り返すかのように、人々は、過去から、そして科学的に証明されていることから何も学んでやるかと意固地になっているかのように思えます。

私たち気候アクティビストたちはよく、原子力は石炭やガスと比べ二酸化炭素をほとんど排出しないのだからいいと思うべきではないかと訊かれます。なんと馬鹿げた話でしょう。というのは、真実はあまりにも明らかだからです。まず一つに、原子力のカーボンフットプリントは過大評価されています。原子力エネルギーで二酸化炭素排出だけを見るといふなら、原発が人間と環境にとって常時危険を意味しているという事実を無視しなければならなくなります。世界で30か国以上に400基以上の原子炉があるというのに、世界ではたった一つしかまだ可能性として挙げられている最終処分場がありません。私たちにはでもまだ10万年も放射能を出し続ける何十万トンもの放射性廃棄物があり、それを世代から世代へと引き継いでいかなければなりません。生まれたばかりの子供たちに対して放射能のごみを押し付けるだけでなく、まだ生まれていない子供たちにもそうした信じられないほどの重荷を強制するのです。ドイツの法律では、最終処分場は100万年安全に保管されなければいけないと決まっています。でも、いったいこの誰がそれを保証するというのでしょうか、これほどまでにひどくなった気候危機にあつて何の安全も保証してくれない政治が、どうして100万年もそのように危険なままのものを保証することができるのでしょうか？

カーボンフットプリントだけが問題なのではありません。私たちアクティビストたちは、人間の生活の基盤が守られ、平等さが確保されることを求めています。それでどうして、極端に高価で環境にとって高度な危険を伴う石炭を、これまた極端に高価で人間にとってリスクの高いエネルギー形

態である原子力と取り換えるなどということができのでしょうか？ そんなに馬鹿にするのもいい加減にしてください。

そしてこれらの不条理さをさらに強調しているのが、ここから数百キロ離れたところでプーチンが、石炭、石油、ガスで儲けたお金を使って戦争を行い、さらにそこでウクライナの原子炉を襲撃させ、周囲の人たちをも危険に晒そうとしているという事実です。

ここで **EU** に訴えます。本当に原子力をこれからも拡大するつもりなら、そして本当にまだこの前世紀のリスクの多い技術にまだ保険を掛けたり投資したりする人が見つかると思っているとするなら、そして真の平和でグリーンな再生エネルギーを後回しにするつもりなら、そしてこれからもロシアのような国からウランを輸入しようと本気で思っているのなら、すればいいでしょう。

でも、それを持続可能なエネルギーだなどと言いふらそうなどとは一秒たりとも思わないでほしい。あなたたちだって私たちと同じように、それが最初から最後まで嘘であることを知っているはずです。そのタクソノミーでフランスのおんぼろ原子炉を継ぎはぎしたいと思っていること、本当は気候にとってフェアなエネルギー政策変換とは何の関係もないくせに、聞こえのいいパッケージに包み込んで、進歩を逆行するようなリスクの多いテクノロジーを売りつけないでほしい。

本当にそれがしたいならやればいいが、でもせめて誠実に、それらは危険でフェアなエネルギー政策変換をただ遅らせるだけの馬鹿げたミックスなのだということを素直に認めてほしい。気候危機を食い止めるための唯一のフェアなソリューションをする気がないのだということを。持続可能だなどと言わないでほしい。

世界全体のエネルギー需要のたった 10%を満たすために、本気で数十年ごとに最悪事故を必要悪と受け入れるつもりですか？あと何パーセントのエネルギーのためなら次のフクシマ事故を受け入れてもいいと思っているのですか？放射能に汚染された領域は次はどれくらい大きければ済むのですか？あとどれだけの死者や、後遺症に悩む世代が続いてもいいと思っているのですか？いつになったらもう十分と思うようになるのですか？

欧州全体で再生可能エネルギーを早く充実させることの必要性が今ほどはっきりしていたことはありません。あなたたちのグリーンウォッシング、ロビー活動に扇動された悪しき政策を支持している時間も、ことに忍耐も私たちにはまったくありません。EUよ、私たちはもとより、あなたたちのやり方に加担するつもりはないことをよく覚えていてください。